



(東証1部:6848)

東亜ディーケーケー株式会社

平成28年3月期第3四半期決算説明資料

平成28年2月

# 平成28年3月期第3四半期決算サマリー



- 中期(3ヶ年)経営計画「HYBRID経営計画」を平成27年4月からスタート
- 売上高は国内・海外ともに伸長、不動産賃貸事業増収で **100億円台** 確保
- 利益は売上高拡大と売上原価率の改善で販管費の増加を吸収し大幅増益
- 単月黒字化 **76ヶ月** 連続記録達成更新中（平成21年9月から6年4ヶ月）

(単位:百万円)

	H26.3Q 実績	H27.3Q 実績	前年同期比増減	
			金額	%
売上高	9,737	10,121	384	4.0
営業利益	622	823	201	32.3
経常利益	637	859	221	34.8
四半期純利益	378	546	168	44.5

(注)本説明資料中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 計測機器事業(増収・増益)

売上高9,921百万円(3.9%増)、経常利益736百万円(38.9%増)

- 国内は、中国経済の先行きの不透明感と持続する円安傾向から設備投資意欲が極めて慎重さを感じる環境で推移している中、①環境・基本プロセス分析機器分野の環境用水質計は更新需要に伴い堅調に推移、②科学分析機器分野の医療用関連機器は新製品の投入で増収に寄与、③産業用ガス検知警報器の顧客需要の掘り起こしで回復、④保守メンテの増加により増収
- 海外は、中国(環境用水質)及び韓国(上下水道用)向け水質計が好調裡に推移し増収
- 利益面は、円安が続き、輸入製品のコストアップ分を販売価格に転嫁することが厳しい状況の中、当社固有の技術力と比較的高占有率を誇る環境・プロセス分析機器群の伸長がこれを十分にカバーし大幅増益

## 不動産賃貸事業(増収・増益)

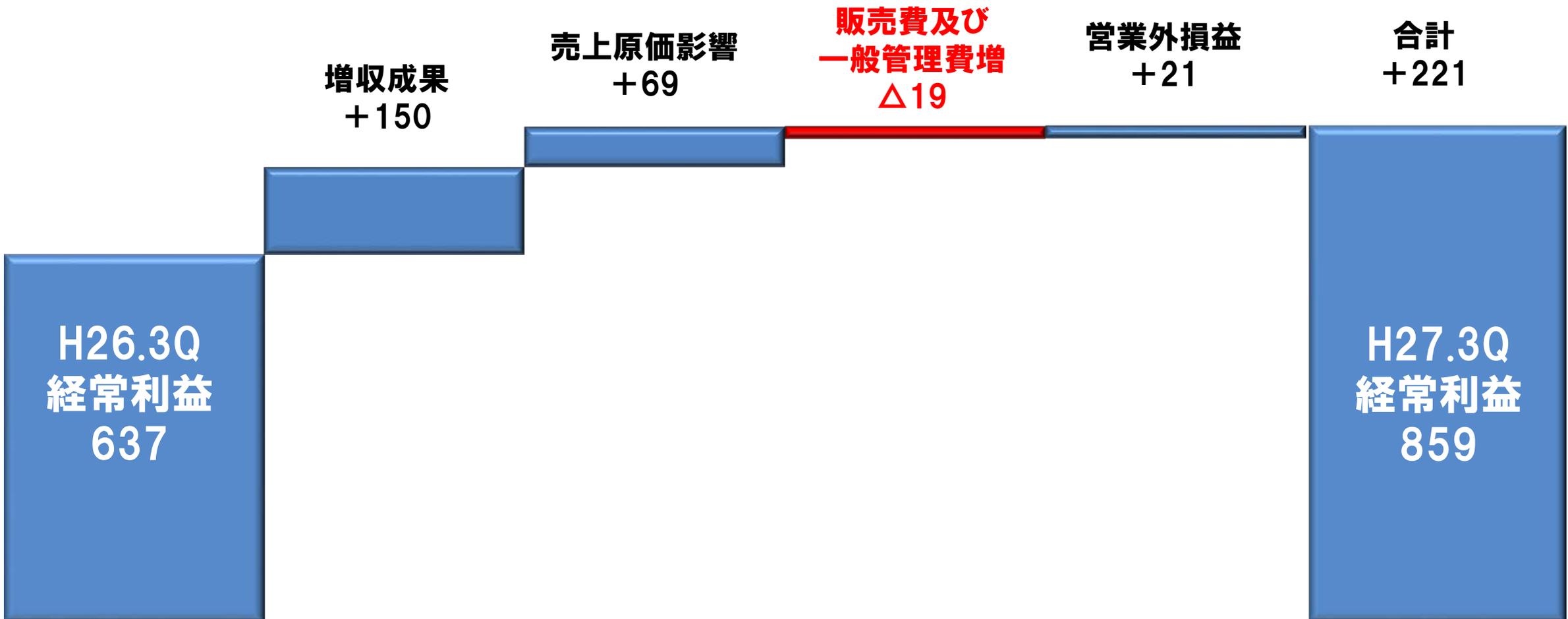
売上高200百万円(7.0%増)、経常利益122百万円(14.4%増)

- 本社隣接の賃貸ビルが満室となり増収・増益

# 第3四半期經常利益増減分析



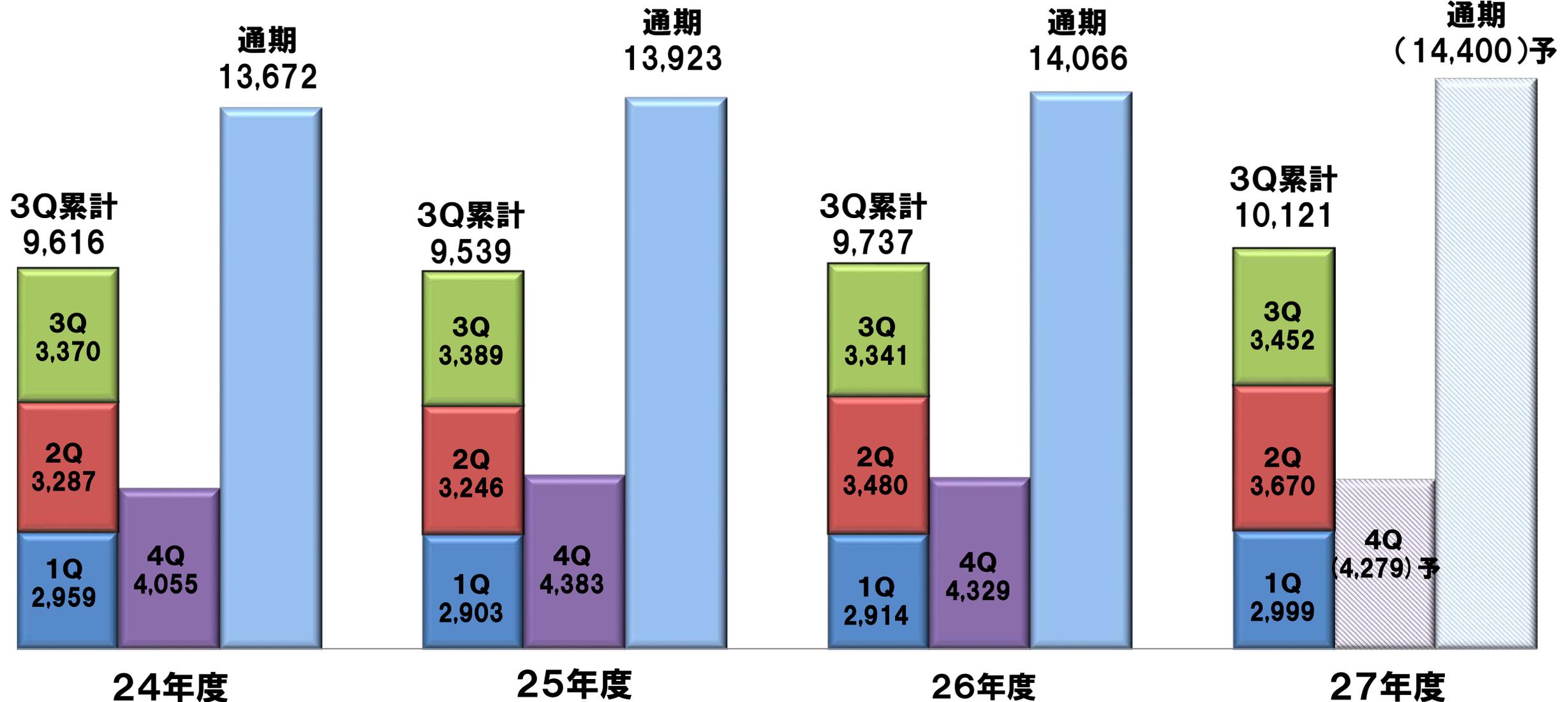
(單位:百萬元)



# 売上高四半期別推移

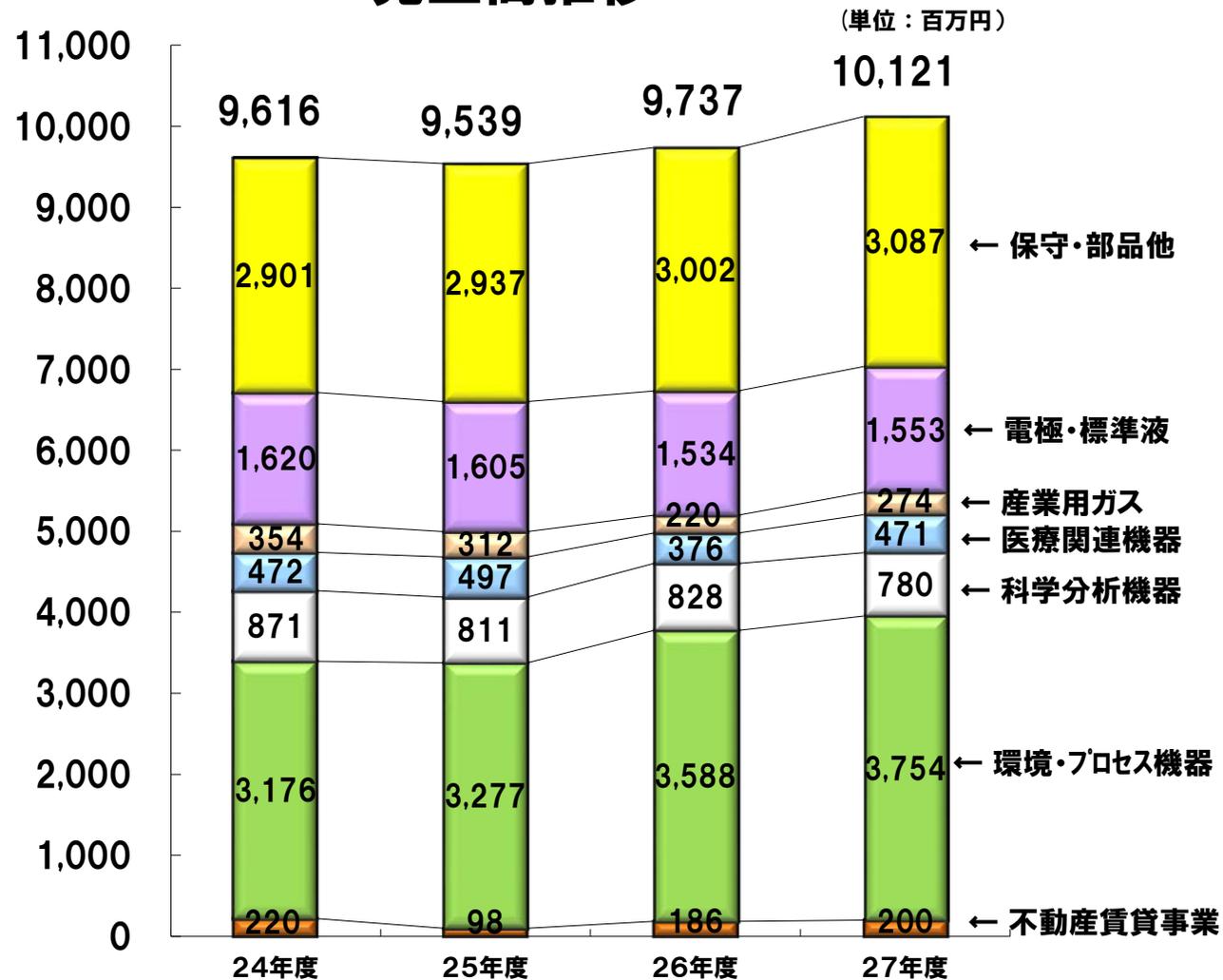


(単位:百万円)

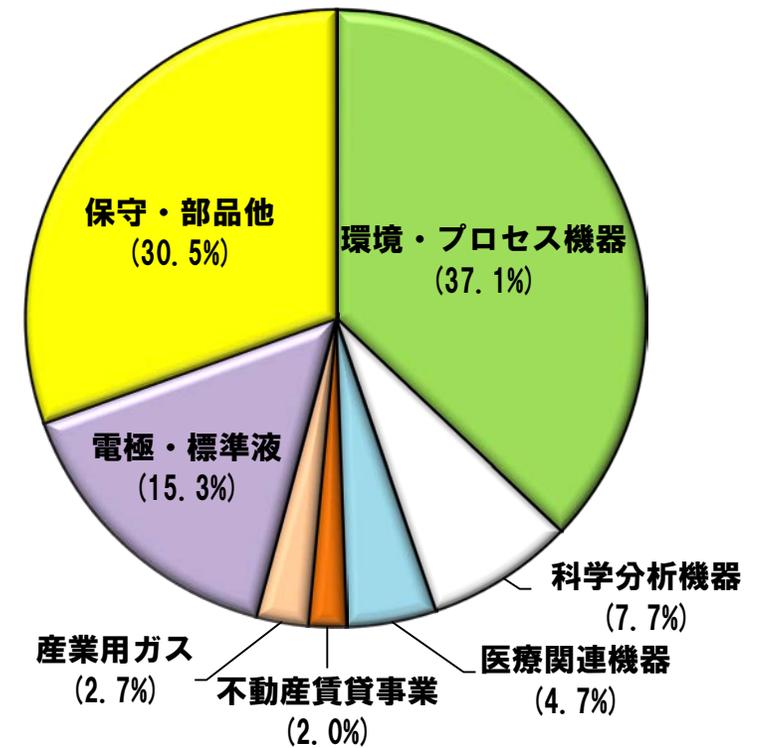


# 第3四半期売上高推移と構成比

## 売上高推移



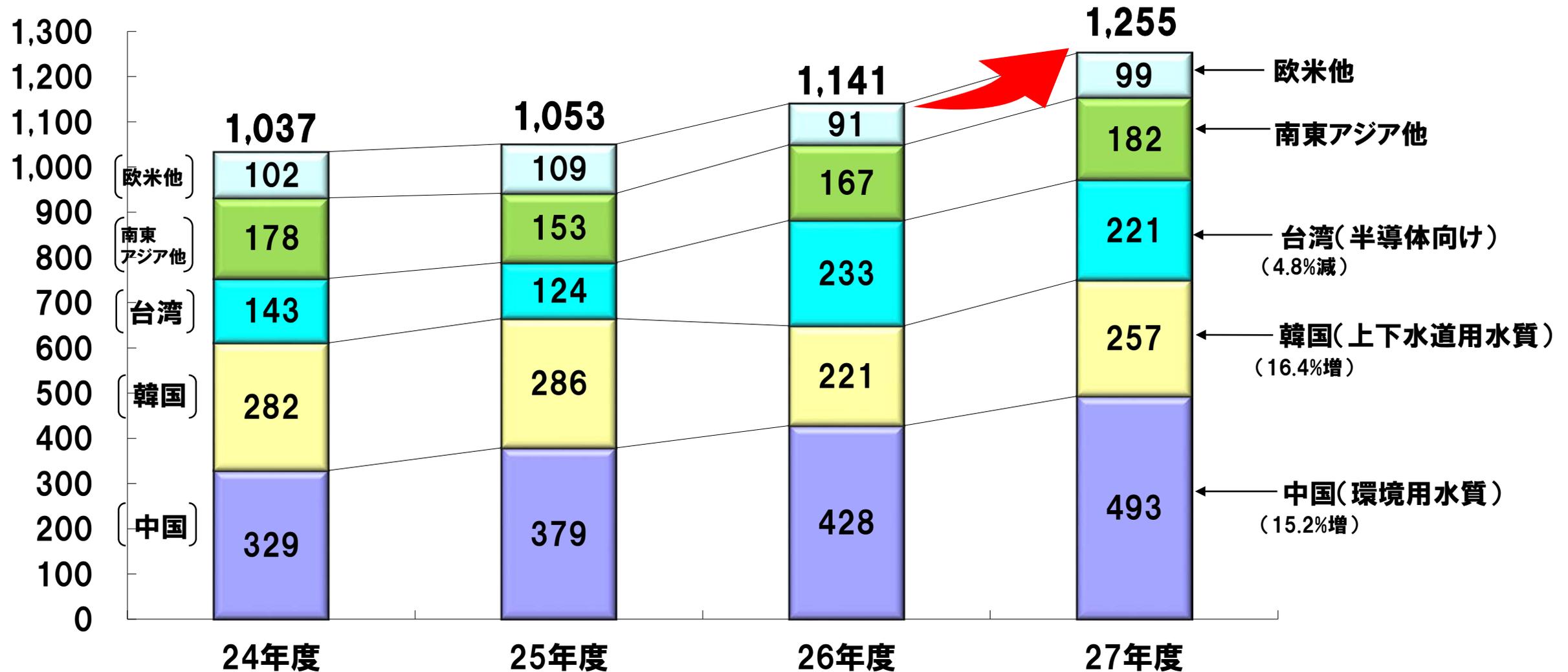
## 売上高構成比



# 海外売上高第3四半期推移

対前年同期比+10.0%

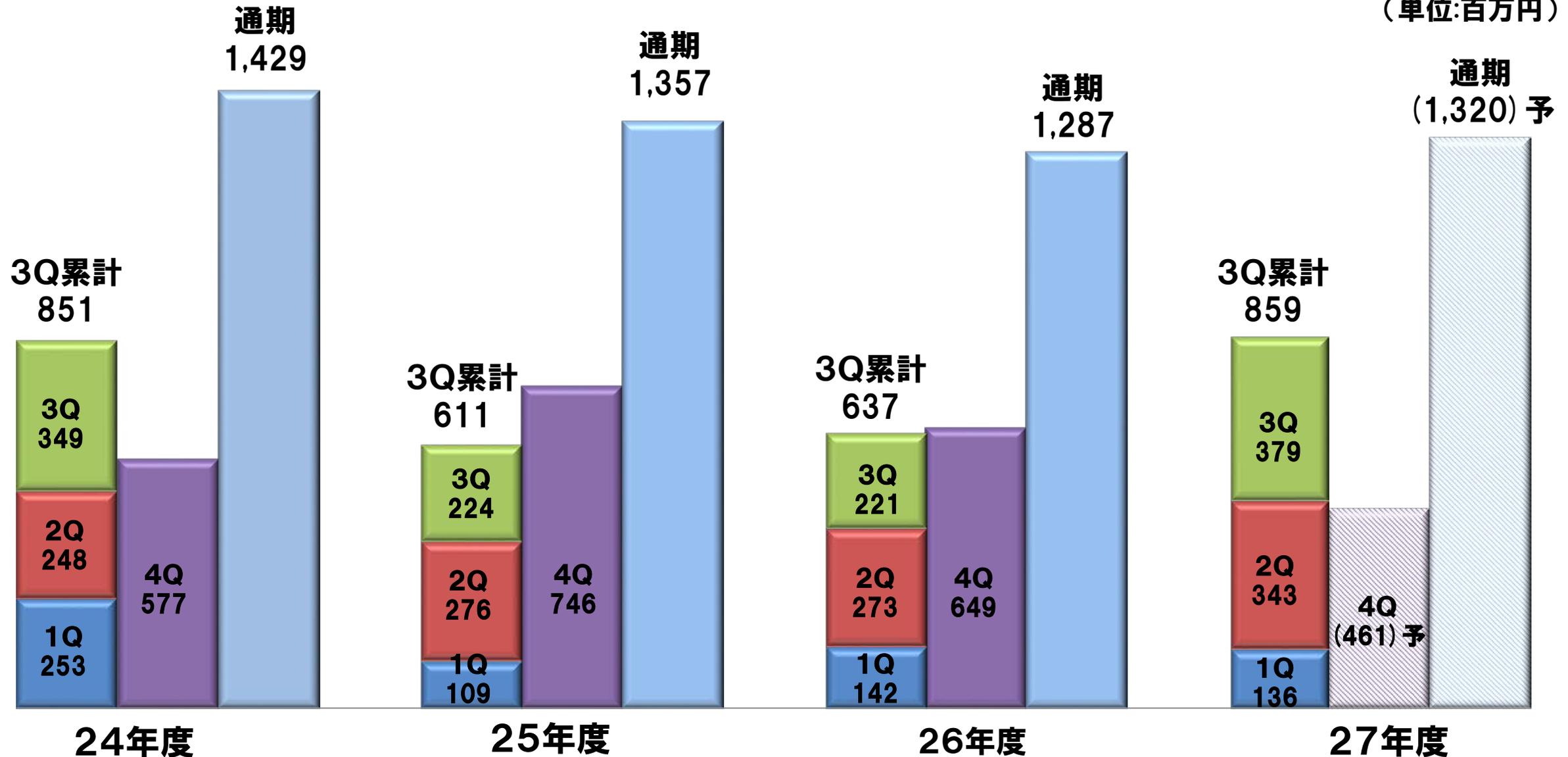
(単位:百万円)



# 經常利益四半期別推移



(単位:百万円)



# 貸借対照表及び損益計算書(要約)



## 貸借対照表

(単位:百万円)

	前期 27年3月末	当期 27年12月末	増減額
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	12,539	12,854	314
固定資産	5,680	5,532	△147
有形固定資産	3,219	3,109	△109
無形固定資産	478	416	△62
投資その他の資産	1,982	2,007	24
資産合計	18,220	18,387	167
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	3,037	3,078	41
固定負債	3,143	2,919	△224
負債合計	6,181	5,998	△182
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	11,289	11,618	328
資本金	1,842	1,842	—
資本剰余金	1,297	1,297	—
利益剰余金	8,161	8,489	328
自己株式	△11	△11	△0
その他の包括利益累計額	748	770	21
その他有価証券評価差額金	770	788	17
退職給付に係る調整累計額	△21	△17	3
純資産合計	12,038	12,388	350
負債純資産合計	18,220	18,387	167

## 損益計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期 26年4月1日 26年12月31日	当第3四半期 27年4月1日 27年12月31日	増減額
売上高	9,737	10,121	384
売上原価	5,919	6,084	164
売上総利益	3,817	4,037	220
販売費及び一般管理費	3,195	3,214	19
営業利益	622	823	201
営業外収益	43	49	5
営業外費用	28	13	△14
経常利益	637	859	221
特別利益	0	—	△0
特別損失	0	4(※)	4
税金等調整前四半期純利益	636	854	217
法人税等	258	308	49
四半期純利益	378	546	168

(※) 特別損失の4百万の内3百万円は筑波営業所閉鎖に伴う減損損失。

# 平成28年3月期業績予想(修正なし)



- ・ 主力の環境・プロセス分析機器は、国内では環境省第5次水質総量規制時に導入した機器の更新需要に引き続き注力。海外では中国経済の総体的な減速懸念が報じられておりますが、中国政府当局の環境保全技術に対する監視体制整備への関心は高まっており、関係機関との更なる技術交流の深化を通じて当社固有技術を供与し業績拡大。また、科学分析機器は医療関連機器分野の回復と、10月から販売を開始した卓上型水質計の新製品「Xシリーズ」で売上拡大を図る。
- ・ 当期連結業績予想は概ね堅調に推移しており、現時点では平成27年5月8日に公表の通期業績予想は修正なし。

(単位:百万円)

	H27.3 実績	H28.3 予想	増 減	
			金額	%
売 上 高	14,066	14,400	334	2.4
営 業 利 益	1,265	1,300	35	2.8
経 常 利 益	1,287	1,320	33	2.5
当 期 純 利 益	759	900	141	18.5

## (1)「PM2.5(微小粒子状物質)測定装置」の中国国家認証を取得

平成27年11月9日、中国における「PM2.5(微小粒子状物質)測定装置」の国家認証試験に合格。連続安定試験、四季毎の精度試験など、およそ1年間にわたる厳しい環境試験で高評価を経て、認定書を受領することができました。ご承知のとおり、環境問題が深刻化している中国は国を挙げて環境保全に取り組んでいます。当社は中国では環境水質分析計で既に多くの実績がありますが、これにPM2.5測定装置が加わったことで水・大気の両面から中国の環境保全に貢献できることとなり、今後の中国での環境ビジネス拡大に大いに期待しています。



## (2)「東亜ディーケーケー株式会社 ソウル事務所」開設

当社中期経営計画(HYBRID経営計画)に基づく海外営業本部の成長戦略の一つとして、「東亜ディーケーケー株式会社 ソウル事務所」を平成27年12月30日に開設しました。

ソウル事務所は、韓国における東亜DKKのブランド力の向上と市場拡大を図るため、需要動向の把握と技術的PRを中心に、韓国における水・大気の環境保全技術交流及び韓国エンジニアリング会社との技術協力を行い、加えて韓国のプラント業界を通じて全世界への輸出を側面的に支援する体制を取り、日韓の技術交流及び環境保全に資することを目的としたものです。



(事務所玄関)

1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

＜お問い合わせ＞

東亜ディーケーケー株式会社  
経営企画部 企画・IR課

電話：03-3202-0242

メール：ir@toadkk.co.jp

URL：<http://www.toadkk.co.jp/>